

基本方針 3

多様な界隈

山の手と下町に展開する
多様な界隈の個性を活かす

スケール	キーワード	ページ
地域	22. まちの多様性	56
	23. 広場から広場	58
街区	24. 路面のにぎわい	60
	25. 路地を活かす	62
	26. 歩行路のつながり	64
	27. まちと共感する広告	66
外構	28. 表と奥の表情	68
	29. 見えない駐車場	70
	30. 広場の設え	72
建築	31. 間口の分節・高さの分節	74
	32. 目立たない設備	76
	33. 建物を活かす広告	78
	34. 馴染む色彩	80

22. まちの多様性



千代田区都市マスタープラン

都市は均一、同質的には発展しない。
 近接する地域が相互に関連し合い、尊重し合いながら、
 それぞれの個性を大切にしながら発展することで、
 色々な地域や人々が共存する、多様で奥深い都市になる。

方針

多彩なまちのまとまりと、そこでの多様な生活様式を最大限尊重する。
 異なるタイプのまちが相互に関連しながらもそれぞれの個性を大切にしてい
 くことで、多様性のあふれるまちになる。

！ ヒント

個性豊かなまちの共存、まちの尺度（スケール感）、形態意匠、住環境、
 ビジネス拠点などの地域特性 など



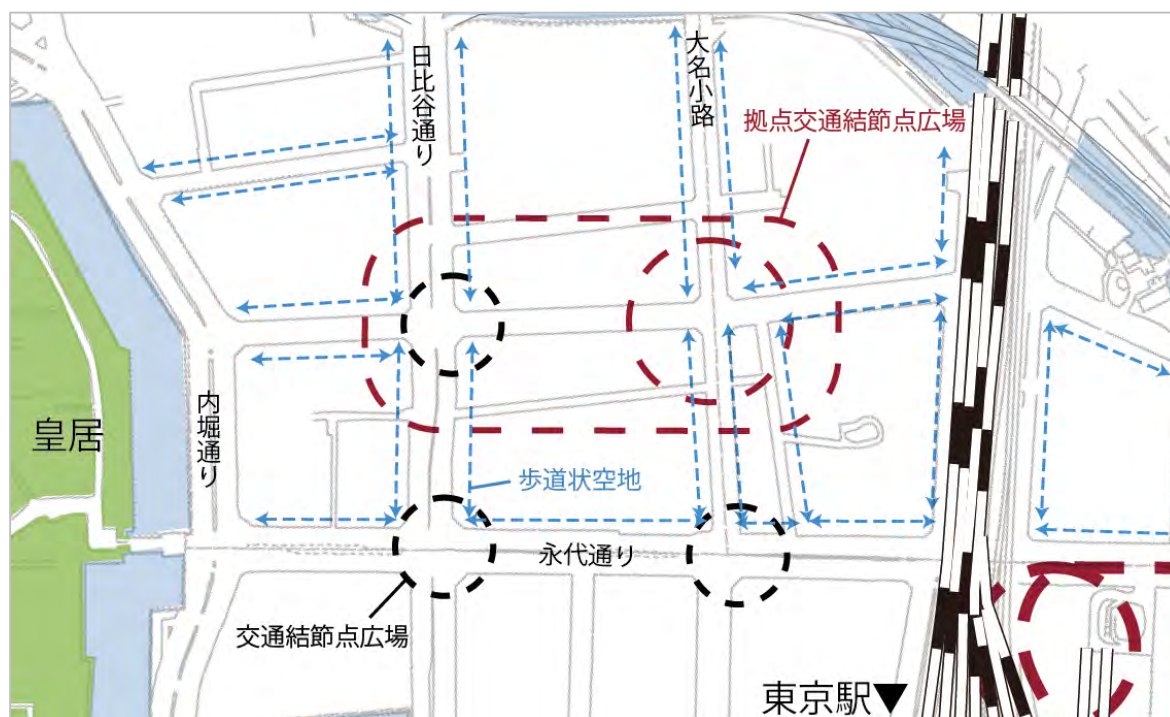
▲日比谷・有楽町の文化芸術街

番町の住宅街▶



▲神田の老舗集積地

23. 広場から広場



つながる快適な空地（大丸有デザインマニュアルを基に作成）

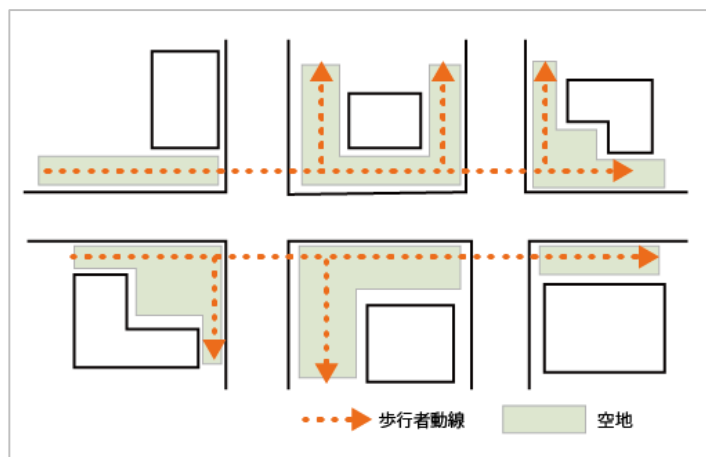
小さな広場から広場へと、広場を機能的にも連携させ、
広場のネットワークを形成することで、人々の生活をつなぐ、
より大きな共有空間とすることができる。

方針

街区単位で歩道状空地を連続させる。
さらに、その空地が次の広場や生活拠点、活動の節点へつながる歩行路と接続
するよう工夫する。

！ ヒント

公開空地、リレーデザイン、歩道状空地 など



▲空地のネットワーク（大丸有デザインマニュアルを基に作成）

大手町エリアでは性格の異なる広場を地上・地下でネットワークキングしてまちの骨格を形成。



▲サンケイビル（大手町一丁目）

多様なイベント活用を想定したフラットな広場。



▲OOTEMORI（大手町一丁目）

自然環境の中で育成した森をそのまま移植した広場。



▲大手町プレイス（大手町二丁目）

大きく地下を掘り込んだサンクン広場。

24. 路面のにぎわい



紀尾井町通り

通りに並ぶ店々を眺めてみたり、
時にはちょっと中に入って覗いてみたり。
そういうことをしながら通りを歩くのは誰にとっても楽しいものだ。
人々が楽しみながら行き交うにぎわいがある通りは、まちを元気にする。

方針

活気のある場所や人々の集まる場所をつなぎ、路面沿いににぎわいが生まれるようにしていく。歩行路に接する敷地利用はいきいきとした歩行活動をさそうような工夫をする。

！ ヒント

低層部の商業施設、ゆとりある歩行空間、複合用途、休憩できるコーナー など



◀ 日比谷仲通り

歩行空間に面して開放性の高い店舗を配置し、まちの雰囲気をつくる。



▲ 神田すずらん通り

コミュニティ道路の性格に相応しい商店の染み出しを設える。



▲ 神田神保町

古書店が並び、エリア一体でにぎわいを創出する。



▲ 丸の内仲通り

車両の通行を止め、可動式のストリートファニチャーを用いて、街路空間と沿道施設が一体となったにぎわいをつくる。

25. 路地を活かす



飯田橋の路地

路地の入口にあたる建築物にはランドマークとなるような工夫を施す。

路地は、人々の飾りのない生活風景をかいま見せてくれる。
その人間的な尺度、寸法の中に、自然な遠慮や
マナーが存在することで、路地は心地よく、楽しい場所になる。

方針

路地はいきいきとした場所になるように計画する。そのためには路地に接する空間は人に対してほど良い尺度で構成する。

！ ヒント

従来から利用されてきた路地や通り抜け通路の活用・保全・再生、ビルとビルの間の空間、路地に面した開口部 など



◀ 2 K540

AKI=OKA ARTISAN

(台東区)

鉄道などの土木インフラの下部空間を開放し路地に仕立てる。

裏となる道路面は出入口や窓を設け、人の気配を感じさせる。



▲神田神保町



▲神田猿楽町

路地に面した敷地ではその雰囲気を守り育てるように外壁の素材・緑・看板などを配置する。

26. 歩行路のつながり



飯田橋アイガーデンテラス（飯田橋三丁目）

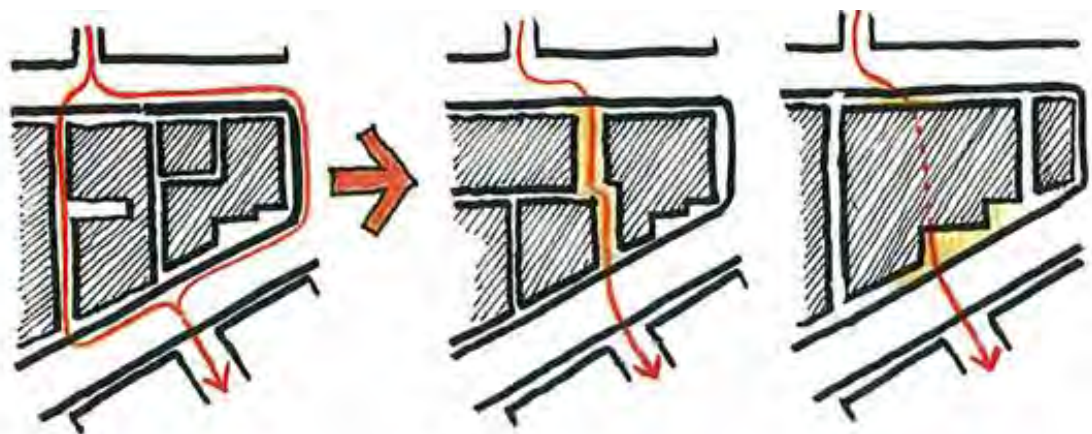
歩行路は、人々の活動をつなぎ合わせ、生活を支える基盤となるものである。
車を気にすることなく、行きたい場所に安心して行ける
ひとつつながりの歩行路が、地域の中に連続的に確保されていく必要がある。

方針

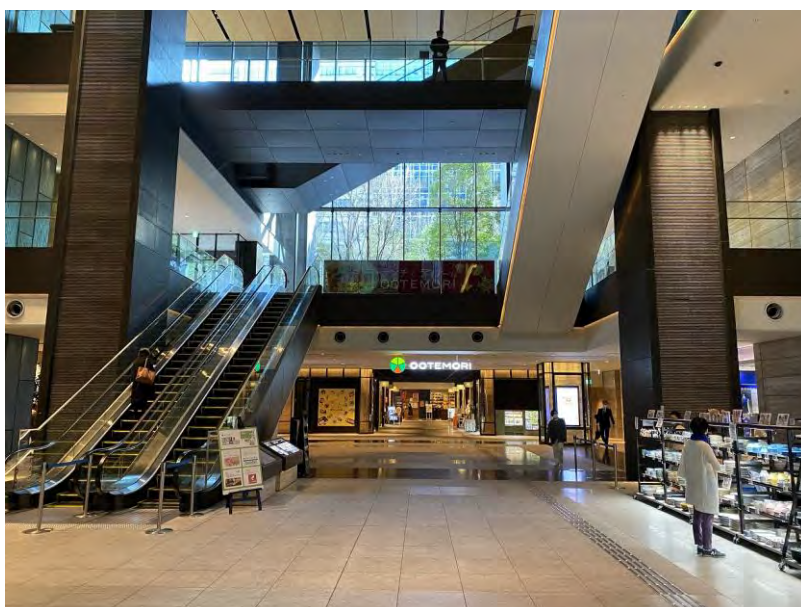
大きな街区にあっては、地域をめぐる歩行路全体のつながりを意識し、歩行活動を魅力的につなぎ合わせるように工夫する。時には建物内部も歩行路の一部と考えることも良い。

！ ヒント

地上・地下のネットワーク、敷地内・建物内の通り抜け、近道、中庭、ポケットパーク、歩行路沿いのにぎわい・界限性、舗装材料、案内サイン など



歩行空間が貧弱な区間では、再開発や街並みの修復のなかで歩行路を確保、充実させる。通路は利用者にとって近道でありたい。

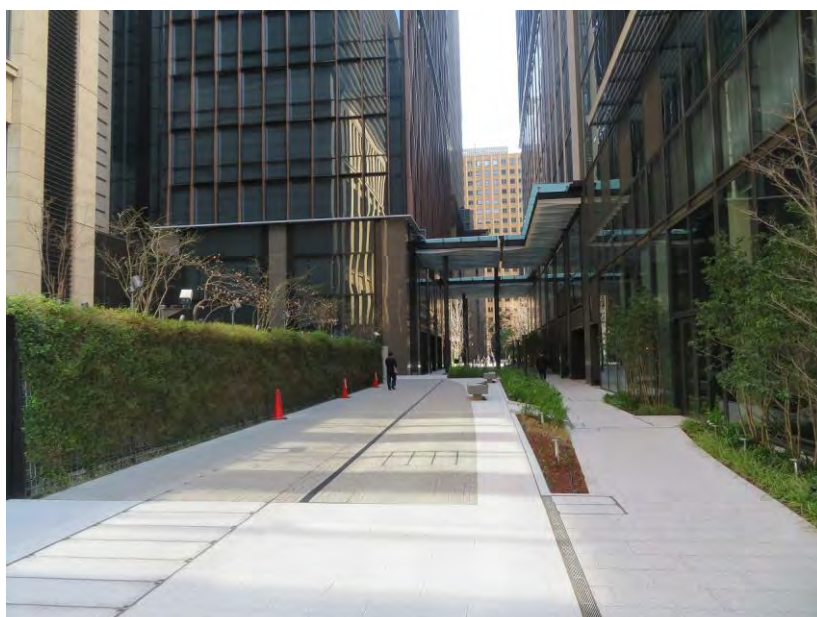


◀OOTEMORI（地下）
（大手町一丁目）

地下街が充実しているエリアでは地下と地上とを視覚的にもつなぐ魅力的な歩行空間を設える。

丸の内テラス▶
（丸の内一丁目）

整備時期が異なる敷地同士であっても協力して通り抜け通路をつくる。



27. まちと共感する広告



秋葉原UDX（外神田四丁目）

街並みの連続性やスカイラインを阻害せず、建物デザインに合わせて広告物を設置する。

まちに無関心な広告がそれぞれ主張し合い

街並みを占領してしまつては、まちの魅力は損なわれてしまう。

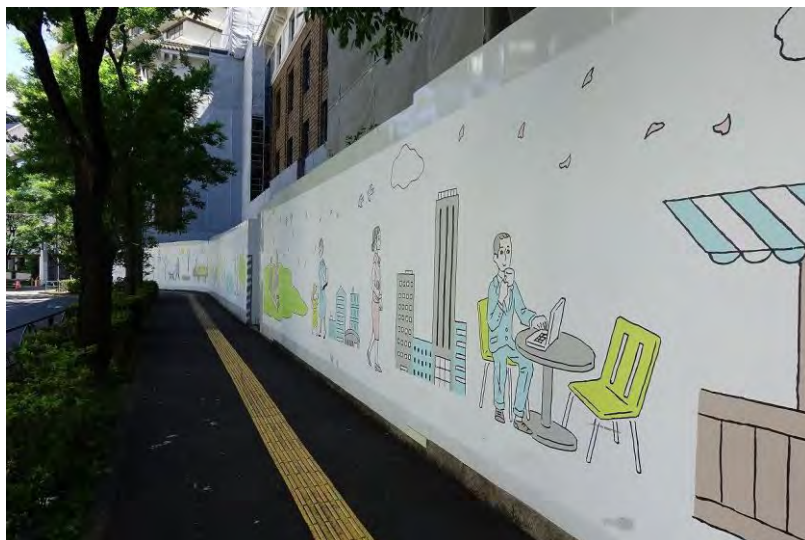
屋外広告物は「公共物」として地域性に配慮した掲出を心掛けるべきである。

方針

広告物は広告の内容や色彩、設置場所、規模など、まちの魅力を損なわないような配慮が望まれる。特に、街並みに大きな影響を与えるデジタルサイネージや大きな看板は慎重に検討すべきである。

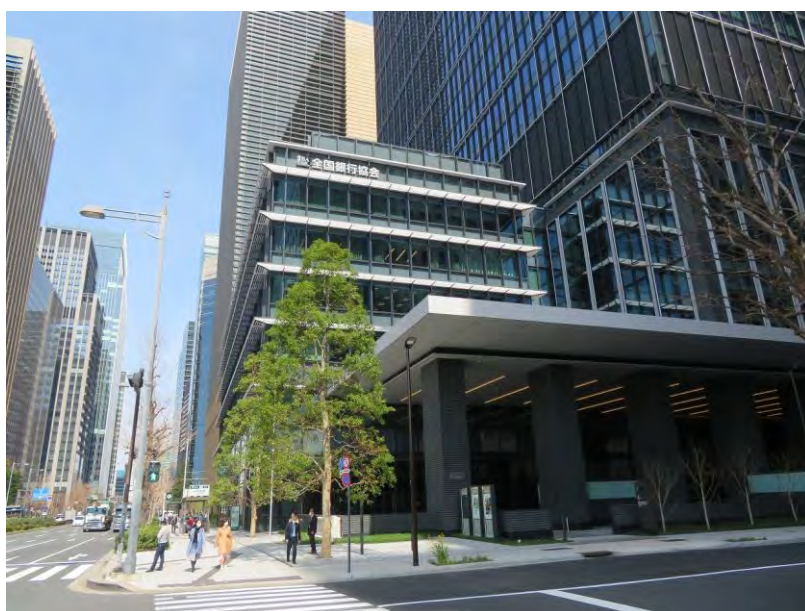
！ ヒント

エリアマネジメント広告、パブリックアート、視点場、照明、統一感、地域性・場所性への配慮 など



◀九段会館
(九段南一丁目)

工事仮囲いに計画地の思い出を想起させる装飾を施すことで工事現場の圧迫感の解消と記憶の継承を両立し歩行者の視線に働きかける。



◀みずほ丸の内タワー
(丸の内一丁目)

眺望に配慮した高さや向きで設置された箱文字のサイン。場所性を考慮し夜間発光は行わないこととする。



◀丸の内仲通り

木立の中に見え隠れするバナーフラッグがイベントのにぎわいや季節感を品良く伝える。

28. 表と奥の表情



◀表 NSE ビル（神田神保町一丁目）

▲奥

街並みは表と奥の表情を隣合せにもっている。

表がにぎわいの場であれば、

奥はプライバシーを尊重しあう場であり、

表の生活を支える大切なバックヤードである。

全てが表になってしまう建物は人々にくつろぎを与えられない。

方針

私的な領域と公的な領域を明確にし、表と奥の性格に応じた表情を生み出す。
まちの奥に生活者のための共有空間を確保し、地域の住環境をより魅力的にしていける。

！ ヒント

表通り、裏通り、路地へと段階的に変化する尺度、形態、土地利用形態、
屋外階段の設え など



▲奥の共有空間

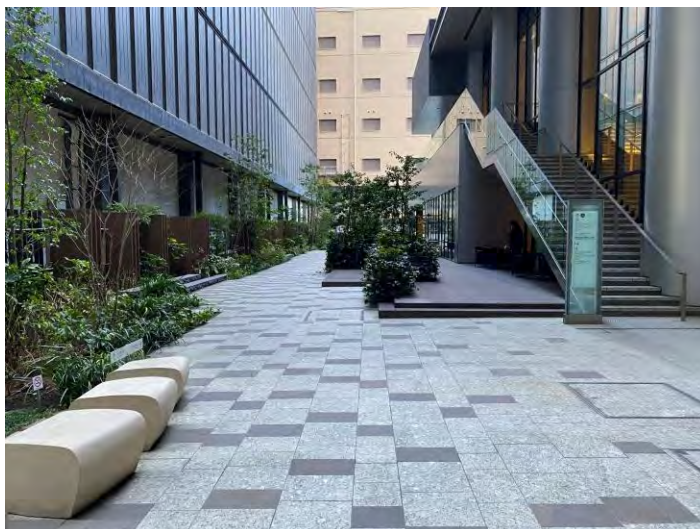


◀表

大手町プレイス（大手町二丁目）

大きな敷地では、隣地境界線に沿って奥まる場所にも十分な空間を確保し、意匠も配慮する。隣接敷地が整備される際には、協力し一体的なランドスケープを生み出す。

奥▶



29. 見えない駐車場



パークアクシス御茶ノ水（外神田二丁目）

車であふれた駐車場は歩く人々に威圧感を与えるばかりでなく、街並みのつながりを切断し、地域の魅力を損ねてしまう。植栽を配置して街並みに溶け込ませたり、駐車場自体のデザインを洗練して魅せる工夫を施したりすることが望ましい。

方針

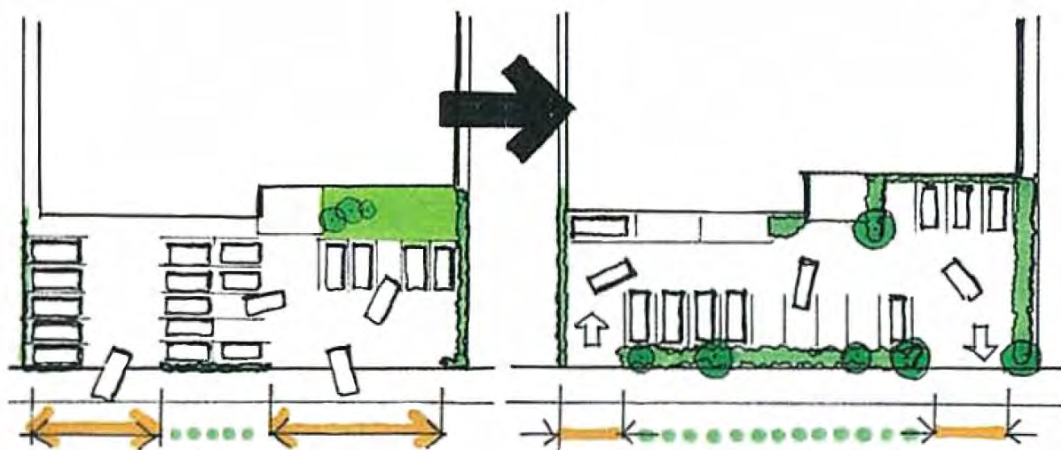
大規模な駐車場は外から車両や駐車施設が直接見えないよう植栽を配置するなどの工夫をする。

1階部分の間口の大半を駐車場出入口としないように計画すること。

また、歩道を大きく寸断する駐車場の開口部や車路を極力避けること。

！ ヒント

駐輪場や駐車場の配置・修景、歩行者の安全確保、舗装 など



アプローチを最小限の大きさで設える。



▲プラウドタワー千代田富士見レジデンス（富士見一丁目）

アプローチ道路の取り方を工夫し、壁面に樹木を組み合わせることで、車の存在を和らげる。

Conoe 三番町▶
（三番町）

品格ある素材を用いた間仕切りを設え、車庫を見せないように工夫する。



30. 広場の設え



一号館広場（丸の内二丁目）

人々が集い、つながり、活動するまちの共有空間としての役割を担う広場。しかし、画一的なデザインであったり、ただ空間が広がっているだけでは、人は集まらない。広場は、その地域の特性を映しだすような、それぞれの場所にあったデザインにすることでまちに魅力や面白さを添え、人々が自然と集まる空間となる。

方針

画一的なデザインや空間構成の広場は面白みに欠ける。
人々が自然と集まり活動することができるような広場とするために、
地域の特性を読み取ったデザインとすることが望まれる。

！ ヒント

滞留場所、舗装、公共空間との一体性、アトリウム、サンクンガーデン、パーゴラ、芝生、遊具 など



▲星のや東京（大手町一丁目）

大きな街区の中に小さなスケールの広場をつくる場合は、そこに面する建築の1階の階高・ファサードのつくり方に十分配慮する。



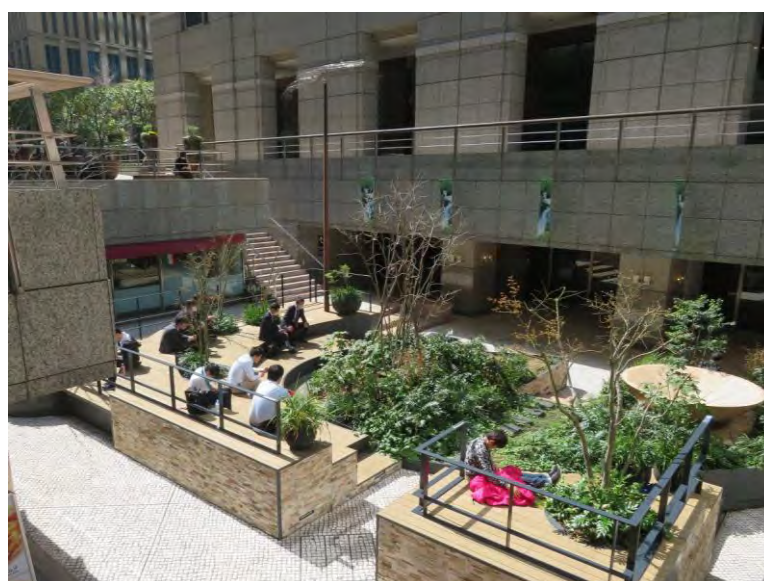
▲東京ガーデンテラス紀尾井町（紀尾井町）

座れる場所と手すりなどを設置しない水景を組み合わせることで、開放的な広場を実現する。



▲神田スクエア（神田錦町二丁目）

遊具やパラソルなどを季節や天候に合わせて安全に、適切に配置できるように広場の床面を設える。



◀大手町

ファーストスクエア
（大手町一丁目）

自然に人が集まり時間を過ごせるように立体的な地形を設える。

31. 間口の分節・高さの分節



丸石ビルディング（鍛冶町一丁目）

街並みは、道路の両側で似たような敷地割パターンを基礎にして、建物のつながりで形づくられる。
この連続する間口のリズムが、道行く人々に心地良い視覚効果を与え、統一感のあるたたずまいを生んでいる。

方針

街並みを構成する建物の間口の尺度を尊重し、既存の街並みのリズムを損なわない配慮をする。

また、高層な建物を建てる際は、低層部とのつながりや、スカイラインの高さとのつながりに注意して、壁面を分節するなどの工夫をする。

！ ヒント

長大・均一・単調な壁面の連続を避ける、ファサードデザイン など



◀ソフィアタワー（麹町六丁目）

複数のボリュームを角度を変えて重ねることにより圧迫感の軽減をはかる。

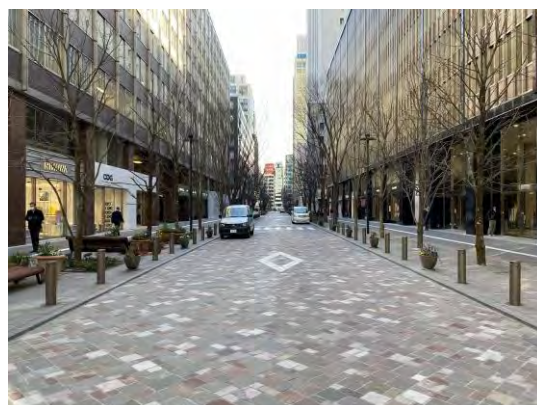


▲プルデンシャルタワー（永田町二丁目）

高層部分の外装の割付を低層部にも素材を変えながら引き継ぎ、超高層建築物にもかかわらず軽快な基壇部を形成する。

丸の内仲通り▶

車道と歩道を合わせた道幅と、地面から2層分の外装デザインとの良好なバランスが、気持ちの良い歩行空間を生み出す。



32. 目立たない設備



大手町タワー（大手町一丁目）

屋上や外壁に設けられる屋外設備、配管あるいは
ゴミ置場や駐輪場などは生活するためには不可欠なものであるが、
これらが、まちの表に無遠慮に露出されると見苦しいものになってしまう。
生活感を感じさせる設備は、「見る・見られる」の関係を意識し、
街並みに溶け込むように設える。

方針

屋外設備機器類はなるべく建物と一体的に計画し、公共空間やほかの建物から
直接見えないように配慮する。

建物の裏口の周辺、ゴミ置場、駐輪場などの共有施設は、人々があいさつを交
わす場として美しくありたい。

！ ヒント

パラペット・緑による修景、ゴミ置場、洗濯物 など

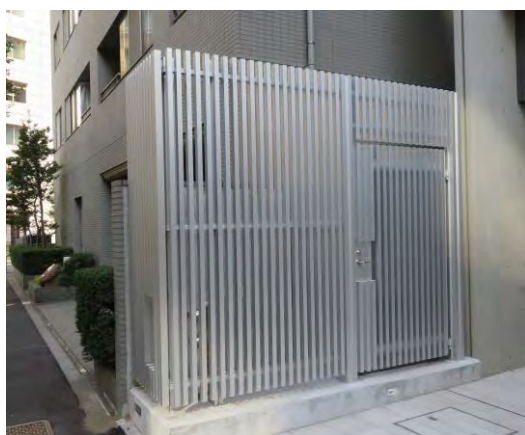


◀ THE BANCHO (二番町)

手摺の面材として透明ガラスと乳白ガラスとを組み合わせ空調室外機を目立たせない。

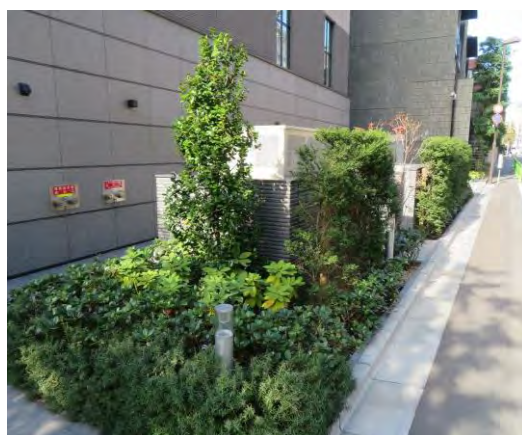
新虎通り CORE (港区) ▶

業務用の大規模な空調室外機や屋外階段をルーバーで修景し、建物と一体的に仕上げる。



▲ L Biz 水道橋 (神田猿樂町二丁目)

連結送水管と高圧キャビネットをルーバーで修景する。



▲ レジデンス二番町 (二番町)

植栽でキュービクルを修景し、連結送水管は背面に配置し、外壁と一体化する。

33. 建物を活かす広告



御茶の水美術学院
(神田駿河台二丁目)

建築物のファサードデザインに屋外広告物を取り込み特徴的な外観を形成する。

看板や広告類が氾濫し、建物がつくる街並みを見えにくくさせている。

看板・広告類は建物を活かすようなデザインでありたい。

方針

建物本体があるべき姿を示し、看板・広告類はそれを引き立てるものにする。
看板・広告類は建物と一体的なものとし、できるだけ小さいものが好ましい。
それらを設置する位置や色彩、内容にも細かい配慮を怠らないようにする。

！ ヒント

看板建築、屋外広告物の設置枠・テナント向けの自主ルール など



▲丸の内仲通り

建物外装の特徴を活かして、広告の位置とプロポーションとを決めることにより、多様性と統一感とを両立させる。



▲東京パークタワー（神田神保町一丁目）

街路に面する店舗の突き出し看板は設計段階から統一し、整った印象をつくる。



▲マーチエキュート神田万世橋
（神田須田町一丁目）

レンガアーチの連続性・リズムを損なわないようにアーチ内側の鋼製建具と一体で広告をつくる。



◀K's 麹町（麹町一丁目）

重厚感のある建築の壁面に調和するように店名サインの素材・色に配慮する。

34. 馴染む色彩



有楽町マリオン（有楽町二丁目）

様々な色の氾濫がまちの風景の混乱を一層強めている。
建物の色は、緑や人の生活風景を引き立てるものでありたい。
まちの中で目立つべき主役となるものは何か、
背景となるものはなにか、冷静に判断する必要がある。

方針

建物の色彩は、街並みの中で慎重に決める。
原色や明度、彩度の高い色は局部的・限定的に用い、まちにたたかみをもたらす色彩を採用する。

！ ヒント

ガラス、コントラスト比、街路灯、舗装、安定感のある配色 など



▲麹町

暖かく落ち着いた印象の色彩が連なり、住宅地らしい雰囲気を継承する。



▲神田神保町

明るい低彩度色を基調とした建築物が連なり、すっきりとした印象の街並みを形成する。



▲神田川周辺（文京区）

濃淡の落ち着いた暖色が統一感の中にも適度な変化のある街並みを形成する。

丸の内▶

石材やガラスなど低彩度の素材色を基調とした建築物が都心ならではの風格ある景観を形成する。

